

# 令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「教科書の裏には、」

奈良県立高円高等学校 一年 小崎 直斗

引っ越しが終わり、新しく出来た自分の部屋にはダンボール箱から出した荷物が散らかっていた。私はダンボールの箱から出していない荷物を出すと、足の踏み場もない場所が変わってしまった。早速断捨離をしようといらないものといるものに分けていたら、小学生の時に使っていた教科書やノートが出てきた。

小学生の頃を懐かしみながらページを眺めていたら、入学式の時に言っていた、祖母の声を思い出した。

「みんなが一生懸命働いた時のお金からこの教科書代が出ているんだよ。」

という言葉思い出しました。しかし、その時の私は小学校生活で浮かれていたのもあり、その言葉の意味を深く考えませんでした。最後のページをめくると、かすれた文字で、

「この教科書には、これからの日本を担う皆さんへ期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれていました。

中学生になり、少し大きくなった私はもう一度この文字に触れることになりました。中学生の私は小学生の時よりも大人になり、この言葉の意味を深く知ることになりました。

現在、高校生の私は教科書代を全額負担することがとても大変だとより実感することが出来ました。小中学校と税金で無償で使えていたことに感謝し、税金は私たちの生活を支えてくれている。そして助けてくれているということを初めて私は実感することが出来ました。

次は私たち子どもたちを支えていくバトンを繋げないといけないなという使命感。そのバトンは繋げていかないといけないものだということを感じた。

そう考えているとふともうひとつ大事なことを忘れていたような気がして、ノートを隅々まで探しました。すると、ノートの最後のページに先生のメッセージがありました。

「最後まで大事に使ってくれてありがとう。」その言葉を見ると、私は教科書やノートを抱きしめていました。

最後に私はありがとうと精一杯の気持ちを込めてお別れをしました。